

全林研会長賞

埼玉県

## 小川町林業研究会連合会

所在地 埼玉県比企郡小川町

設立 昭和43年12月

会員 男88人 女14人 年齢 39歳～87歳 平均72歳

主なプロジェクト

低コスト作業路作設技術への取り組み

### 1. 地域の概要

小川町林業研究会連合会の活動している埼玉県比企郡小川町は、埼玉県の中西部にあたり、外秩父山系と関東平野の結合点にあります。熊谷、川越、秩父、八王子などに通じる交通の要衝に位置し、山間部の林産物と平野部の農産物を交換する場所として栄えてきました。特に、和紙の産地として1300年の歴史をもっています。また、盆地状の地形や街並みから「武蔵の小京都」と呼ばれている、風光明媚な土地です。

近年では東京近郊のベッドタウンとして都市化が進行してはいますが、山間部を中心に今なお多くの自然が残されている地域です。

町の人口はおよそ3万4,000人、土地総面積は6,045ha、森林面積は3,348haで、森林率は55%となっております。そのうち人工林は1,920haで、人工林率57%となっており、埼玉県平均の50%より高くなっています。当地域の人工林も戦後造林されたものがほとんどで、主な樹種はスギとヒノキとなっています。

### 2. 小川町林業研究会連合会の概要

当連合会は、昭和29年に森林組合員有志53名によって林業技術研究会として発足しました。その後、小川町が3村と合併するのに伴い森林組合も合併し、それを機に小川町4地区の林業研究会も1つとなって、昭和43年に小

川町林業研究会連合会として誕生しました。

発足以来、育林コンクールの開催、林業先進地への視察、林業技術講習会の開催など、林業技術の向上に取り組んできました。

その結果、個々の会員の技術は高くなり、積極的に自家所有林地の保育に取り組んだ事で、当地域からは埼玉県主催の育林コンクールにおいて、優秀な成績を収めたものを多数輩出しています。

その後、平成6年度から林研内の女性会員を中心として、あけびや藤などの「つる」の採集、加工、リースやつるかごの製作、販売等の活動を行うようになり、平成7年度より連合会内の婦人部を中心として「あけびの会」が活動を開始しました。

現在、男性88名、女性14名の合計102名の会員で活動を展開しております。

### 3 .活動状況

当林業研究会での活動状況といたしまして、林業講演会、林業先進地視察研修、林業技術講習会等の活動を柱として、地域森林整備に取り組んでまいりました。

当地域の現状として「小規模な山林の所有者が多い」ということがあげられます。また、「山林所有者の山に対する関心の低下」、「材価低迷による経営意欲の低下」といった事も加わり、これらの事柄が要因となって総体的な手入れの遅れにつながっていることを現状として認識する事ができます。

当林業研究会の活動内容といたしましても、これらの現状問題に貢献することのできる講演会や講習会を実施しているところであります。

#### 林業講習会

中山間地域で栽培可能という新しい山菜「ヤマウコギ」について、埼玉県農林総合研究センターの専門研究員を講師に招き、話をさせていただきました。「ヤマウコギ」はウドやタラノキと同じウコギ科の植物で県内に普通に自生しており、半日陰の林縁などが植栽適地ということで、挿し木で増やすことができるそうです。また、埼玉県ではほとんど食文化がありませんので、新しい山菜として広めていくことが可能という事など、認識を新たにしたい

員も多かったようです。

### **先進地視察研修**

視察については、国産材(地域材)をどのように活性化できるかを検討する材料とするとともに、製材品を大量生産するシステム、製材コスト削減、環境対策についての現状を得とくするため、茨城県神栖市にあります中国木材価(株)鹿島工場へ視察研修を行っています。

鹿島工場は首都圏への製品供給を目的とした拠点として稼働しており、工場内で発生する端材等を活用してバイオマス発電で電力を供給するなど、画期的な近代工場を視察することができました。このような大規模生産工場へ国産材(地域材)を安定的に送るシステムを確立できれば、山の活気が蘇るのではないのでしょうか。

### **林業技術講習会**

現存する森林資源を活性化させるための手立てとして、どのような方法があるかという事を考えてみると、今後の地域森林資源の有効的な生産・活用を実現していくためには、低コストでの木材搬出技術が必要不可欠であると思われまます。

そこで、林業技術講習会において「四万十式作業路開設技術講習会」を開催しました。講習会には林研会員の他、施業地域の山林所有者の皆様にもご参加いただき実際の作業現場にて詳細を実習しました。講師には低コスト作業路の普及に幅広く活躍されている、田邊由喜男氏をお招きして、作業路を作設しながらの技術指導をお願いしました。

四万十式作業路の特色として、切土・盛土の均衡、伐根の利用・植生表土による盛土法面の強化、切り取り法面の低垂直化、洗い越し工法(水処理)等々、現場で発生する材料を有効に利用することや、最小限の施業工法で地山を傷めずに低コスト作業路の開設が可能となります。また、作業路作設のための路線選定の方法論や既設作業路の検討会なども林業技術講習会として実施しております。

小川地域においても小規模な山林所有者が大多数を占めており、それらの小規模山林を集約化し、このような低コスト作業路を密に網羅していく事に

よって、現存の森林資源の有効な生産・活用の実現が可能となるのではないのでしょうか。そして何よりも、山林所有者にとって新たな展望が開けていく道となるかもしれません。

### **あけびの会活動**

あけびの会は山にはびこる“つる”を何とか利用できないものかと、平成7年に林研婦人部として発足しました。主に秋から早春までの時期に採取したあけび、ツツラフジ、ふじづる、山ブドウなどのつるを使い、“かご”や“リース”を製作し、町や県のイベントで販売しております。作品はどれも自然の曲がりを活かしたもので、形・大きさもまちまちではありますが、その自然さこそが山からの贈り物として多くのお客様に喜んでいただいております。また、要請があればあけびの会の会員が講師となり、つるかご講習にも取り組んでおります。

### **緑の募金活動**

小川町で毎年11月に行われる農業祭において、当林業研究会連合会のブースを設け、緑の募金にご協力いただいた方に苗木を差し上げています。ブースには林業に関するパネルの設置、冊子の配布を行い、森林・林業の現状についてPRをおこなっています。実際に山との関わりが無い方々にも、少しでも関心を持ってもらいたいと思っています。

## **4 .今後の活動および展開**

山間部の住民減少、不在村地主の増加、高齢化、林地境界の不明確、材価低迷による森林整備への意欲減退など、これら全国と同様の問題が山積している現状であります。しかしながら、長い歳月にわたり手間をかけて育てきた山を放り出してしまうわけにはいきません。当林業研究会連合会でも100名を越す会員が日々努力しながら森林・林業の復興を模索しています。これからは会員の要望や意見を取り入れた研修や講習会を実施していくことはもちろんですが、どうすれば山の活気を取り戻すことができるのか、様々な情報を幅広く収集して、自分たちの地域にあった山づくりを目指していきたいと考えております。そのためにも会員だけでなく、地域一般の人々を巻きこ

んでたくさんアイデアや意見を吸収しながら地域全体の理解と協力を得ることにより、森林・林業を活性化させていきたいと考えております。

今後の活動として、引き続き低コスト作業路の普及・整備に努めていく予定です。そのことによる成功事例ができれば、さらに良い効果が得られるのではないのでしょうか。また、地産・地消という考えに基づいた講習会なども企画していきたいと思っています。

我々、林業研究会が先頭に立って地域に根ざした森林整備を推進し、活性化を目指していきたいと思っております。